

## 平成25年度「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」に関する成果の報告書

各回の研修の成果について、以下の通り、報告します。

### 第1回 教師の授業行為における発問と指示の意義と実際についての研修

#### 1) 成果目標

参加者全員が発問指示の意義について理解し、演習によって簡明な発問・指示を体験し、自身の授業行為の課題解決方針をレポートにまとめることができる。

#### 2) 研修後の評価

- ① 評定5(満足)の評価・・・100%
- ② 自身の課題と解決方針を書いた参加者・・・100%

#### 3) 研修後のレポートより抜粋

##### 【本年度新採用教諭】

松野先生の演習授業は、無理のない組み立てだった。どの子も初めから授業に参加し、参加できる配慮があった。それでいて、知的に全員が思考する場面があり、すばらしかった。

それに対して、自分の授業は、学力が高い子・低い子のどちらかしか満足しないような授業になっている。たとえば、授業で思考場面を設けるが、そこに至るまでに低位の子を置いてけぼりにしている。発問は、易から難への配列を意識している。しかし、発問相互が関連していなかったり発問相互の間がジャンプしていなかったりしているのが大きな要因だとわかった。

研修のあと、発問内容の吟味とともに配列を考え、授業するように心がけた。また、主発問を、知的でありながら多様な答えがあるような拡散的なものにしたり、「発問→答えさせる」だけでなく、ノートに書かせて持ってこさせ発言を促すようにしたりした。なかなか全員がまきこめなかった状況が、少しずつだが改善している。

##### 【採用5年目教諭】

国語について、拡散→収束で、言語事項を扱う授業を考えてみるのが課題である。収束、収束で、カチカチと授業を進めるだけでなく、子どもたちの自由な発想を生かしながら授業のねらいにつなげていく。子どもたちから出た考えを「比べる」「分類する」指示を出すことで、思考力を育てていきたい。

言語事項のミニ単元で実際に「かける」について「ooをかける」といった事例を出させ、比較検討する授業を行った。子どもたちは、進んで辞書を使い、「かける」の意味を比べ分類していった。子どもそれぞれの分類は、辞書に則りながらも分類の説明には子どもの解釈が加えられ、友達の分類を興味深く聞き合うことができた。

なぜその授業をするのか、どんな力をつけるのか、今回のように説明できるよう教材研究を深めていきたい。

## 第2回 国語科における教材研究と発問作りの原理原則についての研修

### 1)成果目標

参加者の80%以上が、国語科教材文の発問づくりと実技演習により、テストの平均点が90点を超える指導ができるようになる。

### 2)研修後の評価・成果

- ① 評定5の評価・・・100%
- ② 自身の課題と解決方針を書いた参加者・・・100%
- ③ 実技演習で自分の指導案で模擬授業をした参加者・・・11名

### 3)研修後の成果

- ① 国語のテストの平均点が90点を超えたと報告した参加者・・・11名

## 第3回 総合学習・野外活動における作業指示と安全管理の実践についての研修

### 1)成果目標

参加者全員が、総合学習・野外活動実施時に指導する飯盒炊爨やテント設営に関する基本技術を習得するとともに、野外活動・災害時の救命救急法についての基礎知識を学び、児童への指導方針・危機管理計画をA4レポートにまとめることができる。

### 2)研修後の評価

- ① 評定5の評価・・・100%
- ② 災害時の管理計画作成・・・75%

### 3)レポートより抜粋

採用10年目教諭

### 災害時プログラム実施報告

◆指導案に沿って、授業をしてみた結果についての報告。

- ①指導案の構成はこれでよいか。
- ②提示された資料とワークシートは適切か。
- ③児童の反応はどうであったか。

○学年 1年	○指導者名 白井 明	○実施日 12月13日	○実施項目 【必須】
-----------	---------------	----------------	---------------

#### 【コメント】

- ① 子どもの実態からすると、より身近な大雨に限定した方がより効果的だった。
- ② 写真提示がとてもよかった。
- ③ 写真が子どもの意識を印象づけることにとても役だった。

◆気付いたこと

○よかった点

- ①身近な場所の写真を使っていたこと。(ビオトープ)
- ②晴れの時と雨の時を比較する写真があったこと。

○改善を要する点

- ①学習のねらいのとらえ方，身近な大雨程度でよいのではないか。
- ②周辺の危険箇所を知ることも必要。

#### 第4回 特別な支援を要する児童や保護者に対応するためのコミュニケーション研修

##### 1)成果目標

参加者全員が、特別な配慮を要する児童や保護者に対応するためのコミュニケーション技術、カウンセリング技術を学び、良好な人間関係を保ちながら対応することができるようになる。

##### 2)研修後の評価

- ① 評定5・・・81% 評定4・・・19%
- ② 自身の課題と解決方針を書いた参加者・・・100%

##### 3)実施後の感想より抜粋

###### **【採用5年目教諭】**

余計な言葉がけをしないですむ環境を心掛けた。例えば、マス目黒板を使い、ノート指導の際の指示を減らすようにした。「どこに書くんですか。」という子どもからの質問がなくなり、どの子も静かに書くことができた。Aくんも、抵抗を示さずに書いていた。机間巡視の際に、Aくんを基準として、ノートが書けたかを確認している。いちいち「書けた人」という言葉を言わなくてすんでいる。このように言葉を削るだけで、本当に必要な指示が浮き出てくるようになった。

保護者の方に対しての接し方にも変化が起きている。しようとしたことをほめる、それを伝えるようにしてきた。保護者がAくんをほめることが多くなり、家庭でも落ち着きが増したと聞いた。

#### 第5回 図工科における描画指導の原理原則についての研修

##### 1)成果目標

参加者80%以上が、描画法の実習により、教室の児童に動きのある人物の描画を指導することができるようになる。

##### 2)研修実施後の指導

- ① 指導実践したと報告した参加者・・・5名
- ② 「白いくじら」追試実践



③「せんせいのかお」実践



## 第6回 教材のユースウェアの原理原則についての研修

### 1)成果目標

参加者80%以上が、国語科の漢字指導でテストの平均点が90点を超える指導ができるようになる。  
また、算数科の各種教材を使って教室で指導できるようになる。

### 2)研修後の評価

- ① 評定5・・・100%
- ② 自身の課題と解決方針を書いた参加者・・・100%

### 3)実施後

漢字テスト90点以上を超えたと報告した参加者・・・・・・・・・・12名  
百玉そろばん、フラッシュカードなどを活用していると報告した参加者・・・10名

## 第7回 教材のユースウェアの原理原則についての研修②

### 1)成果目標

参加者全員が、実習により、視聴覚機器を活用した社会科の指導と安全に留意した理科実験の指導ができるようになる。

### 2)研修後の評価

- ① 評定5・・・92% 4・・・8%
- ② 自身の課題と解決方針を書いた参加者・・・100%

### 3)実施後

- ① 社会科で視聴覚機器を使用して指導したと報告した参加者・・・7名
- ② 安全に理科実験を行ったと報告した参加者・・・・・・・・・・7名